



花とみどり

Vol. **67**
2014.2.25

新展示のサクラソウ花壇



当センターでは、県の花「さくらそう」の
386品種を保存・展示しています。



花摺衣



玉珊瑚



旭鶴



機嫌獅子



～ 新たな時代を歩む ～

当センターは、昨年4月に「埼玉県花と緑の振興センター10周年記念式典」を開催し、埼玉県植物見本園の開設から数えると60年を迎えることができました。

本年は新たな区切りのスタートの年になります。

開設以来、当センターは、川口市を始め関係市町村、植木生産・流通・造園に携わる関係団体等のご支援をいただきながら、花植木植栽展示・品種保存、生産技術指導、緑化に関する知識・技術の啓発などに取り組み、花植木の指導機関としての役割を果たしてまいりました。

最近、長引く景気後退から回復基調にあり、被災地の復興・オリンピック関連需要、公共事業の増加、生活に花やみどりを親しむ機運の向上などから、植木等の緑の利用拡大が期待されています。

今後も、花植木産業の発展や緑の保全・創造、花や緑のある暮らしの普及を目指して「埼玉植木のブランドづくり」、「緑に関する指導・支援」、「緑を育て・守る人材の育成」、「都市緑化の推進」などに積極的に取り組んでまいります。

生産者紹介

●平成25年度 秋の叙勲受章
旭日小綬章
(花き園芸振興功労)

日本花き生産協会会長
田島 鐵彌 氏

花と植木の街・深谷市において、長年にわたり鉢花生産に従事する傍ら、(一社)日本花き生産協会会長をはじめ多くの役職を務めるなど、花き園芸の振興・普及に寄与してこられた功績が認められ受章となりました。

■これまでの歩みとこれから

昭和42年、若干24歳にして田島園芸を設立し、シクラメンなどの鉢花生産を始めました。当時はまだ鉢花生産は僅かで手本とすべき事例も無く、全てが初めての試みの日々でしたが、無限に広がる鉢花生産の将来性を見越し、夢を抱いてのスタートでした。高校卒業後に訪れた米国・オランダ等で見聞し、国内外の農業事情を学んで得た「現在の農業は食糧生産が中心だが、今後は花き等の嗜好品の需要が増加するだろう」との思いも、花き生産の世界への参入を決意した背景にありました。

50年頃から花の需要も増加し始め、プリムラを始めとした種子繁殖系草花、ツバキ等の花木類、球根花き、現在の主要品目である栄養繁殖性花き等、200を超える種類の花き栽培を試みました。また、限られた栽培面積で効率的に収益を上げる方法を常に念頭に置き、技術開発と経営改善に取り組んできました。60年には、パート雇用を活用した利益率の高い企業的な大規模経営の実績を評価され、「アイディアを生かした商品と施設の高度利用による大型鉢物経



田島鐵彌氏

営」で、農林水産祭の園芸部門で天皇杯を受賞しました。

現在は、二人のご子息と共に、全国シェア3割を占める看板商品であるシャコバサボテンを基幹品目とし、カラコエ、クチナシ、アツザクラ等、周年に渡り生産・出荷を行っています。

加えて、先駆的な花き生産により「花と植木の街・深谷」を生み育ててきたリーダー的存在でもあり、生産者はもちろんのこと、花き関連業界の人々からの人望も厚く、県下および全国組織において多くの役職をこなしてきました。平成14年からは日本花き生産協会の会長を務められ、花き園芸の振興、普及に尽力されています。

これからも、欧米並みに生活の中へ花と緑が定着し、花き業界全体が再度活性化するようにと、大局的な視点での「花」への思いは続きます。あわせて、「田島園芸」をより確実に健全な事業体としてご子息に引き継げるようにと、経営者であり父親としての厳しく優しい目で語っています。

第37回全国育樹祭において 樹木植栽マット等をPR

平成25年11月16日、17日の両日、皇太子殿下のご臨席を仰ぎ、第37回全国育樹祭が埼玉県で開催されました。この全国育樹祭は、「第10回全国植樹祭」（昭和34年開催）で昭和天皇、香淳皇后両陛下がお手植えされたヒノキを皇族殿下がお手入れされるという育樹の実践を通して「継続して森を守り育てることの大切さ」を全国に広める行事です。

16日に寄居町金尾山で皇太子殿下が「土壌改良材」を散布する「お手入れ行事」を行い、17日には彩の国くまがやドームで「式典行事」が行われました。

この全国育樹祭では、お手入れ会場及び式典会場それぞれで川口市の植木が飾られました。

寄居町金尾山では、お手入れ会場入口の道路よう壁側を樹木植栽マット（安行四季彩マット）で修景し、樹木マットの左右両側を草花のプランターで飾ることとなり、樹木植栽マットの育成・設置を川口市都市緑化植木生産組合が担当しました。

川口市都市緑化植木生産組合では11月16日の設置に向け、

樹種選択（3月）、植木苗木の植え付け（4月）、カバープランツ（低木や下草類）の検討と植え付け（4、7月）、生育状況の巡回確認（7、9月）、現地確認と施工方法の検討（5、9、11月）、落葉樹の栽培管理（紅葉の時期）の検討（9、11月）など様々な検討を重ね、11月15日に樹木植栽マット50個（樹種：モミジ・カエデ類・落葉樹・常緑樹等、樹高約2m、マット寸法：縦50×横50×高さ10cm）を会場入口に設置しました。

紅葉が始まったモミジ・カエデ類と落葉樹に加え、常緑樹、草花により、色鮮やかな会場となりました。

11月17日は、彩の国くまがやドームの式典会場に設けられた「おもてなしエリア」の展示ブース内で農林総合研究センター、花と緑の振興センター、川口市都市緑化植木生産組合が共同で都市緑化の展示を行い、樹木植栽マットのパネルとサンプル（サザンカ、ソテツ、ゴシキナンテン）を展示し、手軽で簡単に緑化ができる事例として来場者にPRを行いました。



設置された安行四季彩マット



お手入れ会場入口の修景



おもてなしエリア展示ブース

10周年記念式典の開催

平成25年4月に、見本園を開設して60年、花と緑の振興センターと改組して10年の節目を迎えたので、「埼玉県花と緑の振興センター 10周年記念式典」を開催しました。

当日は、県、県議会、川口市、緑化関係団体など60名の方々に出席いただき、温かいお祝いの言葉と示唆に富む助言をいただきました。

また、株好樹園会長の中田彪氏から「安行植木の歩み」と題して記念講演が行われ、安行の植木の起こり、安行に伝えられた植木技術など安行植木の歴史を語っていただきました。

安行植木の歴史は、私たちの貴重な財産で、今後とも末永く語り継がれていく必要があると強く感じました。

歴史と伝統ある植木生産・流通の中心地「安行」に



中田氏の熱弁

ある当センターは、その地の利を活かし、花植木の情報発信の基地として、需要開拓のパイオニアとしてその役割を果たしていきたいと考えています。

園内樹木紹介 -60年の歴史を刻んだサクラ達-

当センターは、開園時より植木の見本園として発展してきました。このコーナーではシリーズで園内の展示樹木を遡って紹介していく予定です。

今回は開園当初（昭和28年）からの展示樹木の一つ、サクラについて紹介します。展示樹種の収集は、地元の生産者などの協力により、穂木や種を譲り受け、園内で苗木生産を進めておりましたが、サクラについては東京都苗圃（現在、神代植物園）と新宿御苑から90品種を導入しました。

導入から60年経ち、老木となりましたが、今でも16品種が春には満開の花を咲かせ、来園者を楽しませています。

開園当初からあるサクラ一覧

かんざん おしやま いちよう うこん うすすみ しらゆき しろたえ しょうげつ するが だいにい ふくろくしゅ ふげんそう べんどの
 関山、嵐山、一葉、鬱金、薄墨、白雪、白妙、松月、駿河台匂、福祿寿、普賢家、弁殿、
 ほうしゅ ぼうき ひ たけはらし わしの お
 宝珠、楊貴妃、類嵐、鷺の尾

一葉

開花期：4月中旬～下旬
 花色：淡紅色、のちに白
 咲き方：八重咲き 大きさ：大輪
 由来：荒川堤に植栽
 雌しべが1～2個で下半部が緑葉になっていることから「一葉」と呼ばれる。



鬱金

花色：淡黄緑色
 咲き方：八重咲き 大きさ：大輪
 由来：荒川堤に植栽
 花が黄緑色の特徴ある品種。
 広く普及し、日本全国、欧米まで広がる。



宝珠

開花期：4月中旬～下旬
 花色：淡紅色
 咲き方：八重咲き 大きさ：中輪
 由来：新宿御苑にあった品種。
 奈良八重桜に似る。紹介されている事例が少なく、希少品種。



ホームページの連載記事紹介

当センターのホームページには、研修・講座や業務のご案内のほか、各種連載記事を掲載しています。

当センターを見学に来られる方に向けた情報として「みどころ」と「見頃情報」があります。

「みどころ」は、2か月毎にセンター内で見頃になる植物の種類・品種などを、植物の写真とセンター内地図で紹介しています。

「見頃情報」は、毎月月初めに、センター内で見頃になる植物の種類や品種名を、カレンダーで週間ごとに紹介しています。



当センターでの四季の移ろいを生き物の姿から情報提供しているのが、「園内の生き物歳時記」です。

「園内の生き物歳時記」は、植物ばかりでなく、センターに訪れた野鳥や昆虫などの生き物の生態を紹介しています。例えば6月18日の記事では、「ちょうど今、初夏から夏にかけて実る果実が大きくなる時期です。今回は、そのような時期に果実に被害を与える虫の一種を紹介します。モモチヨッキリは体長約1cm・・・。」と掲載しています。



Information

花とみどり

平成26年2月20日発行

発行所／埼玉県花と緑の振興センター
 発行人／埼玉県花と緑の振興センター 所長 川島 勝
 〒334-0059 埼玉県川口市安行1015
 TEL：048-295-1806 FAX：048-290-1012
 HP <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/k32/>
 E-mail h951806@pref.saitama.lg.jp

